

国際化による地方中核都市の整備に関する基礎的研究

名古屋工業大学 ○学生員 伴野 豊

名古屋工業大学 正 員 山本 幸司

名古屋工業大学 正 員 池守 昌幸

▶ 1. はじめに 本稿は、第三次全国総合開発計画の基本的目標を実現するために採択された定住構想の一方法として、国際化による地方中核都市の整備の可能性・方向を探るべく、「国際化」という共通に認識し難い現象を国レベル、都市レベル、個人レベルの3段階でとらえ、比較的統計量として把握しやすい都市レベルを分析対象とし、図-1の研究フローのうち、1、2、4、7についての研究概要をまとめたものである。

▶ 2. 国際化指標による国際都市の比較研究

今回分析対象とした国際都市は、一般的に国際都市として知られている157都市である。また、分析に用いた指標は、国際化の程度を示すと考えられる指標のうち、その信頼性および入手可能性などを吟味した結果、表-1に示すような18指標を採択した。以上のデータを基にして、本稿では国際都市とは何か、国際都市は分類可能か、さらに国際都市はどのように成長発展しているのか、などについて数量化理論Ⅲ類ならびにⅡ類を用いて分析を行なった。以下にその概略を述べる。

● 2-1. 数量化理論Ⅲ類による分析

○ 国際化指標の分類および国際都市分類空間の軸の意味づけ

カテゴリースコアグラフを詳細に検討した結果、国際化指標は3グループに分類することができた(表-2)。さらに、国際都市分類空間のⅠ軸は、政治・経済・交通面を中心とした国際交流の程度および可能性を示す軸であり、Ⅱ軸は、文化・産業面を中心とした国際交流の程度およびその可能性を示す軸であることも明らかとなった。以上の結果を踏まえて、各国際都市のサンプルスコアを2次元空間にプロットすることにより、国際都市分類の可能性を探った結果が以下である。

○ 国際都市の分類および成長発展過程

サンプルスコアおよびカテゴリ-特性空間分布より、国際都市はⅠ国際都市、Ⅱ文化・産業国際都市、Ⅲ政治・経済・交通国際都市、Ⅳ中次国際都市、Ⅴ高次文化・産業国際都市、Ⅵ高次政治・経済・交通国際都市、Ⅶ高次国際都市、Ⅷ超高次国際都市の8グループに分類できた。その分布状況を示す集中楕円が図-2である。次に、国際都市分類空間での国際都市の分布状況、各グループの特徴、カテゴリ-特性空間より、図-3のような国際都市の成長過程が推測された。図より、都市が国際都市

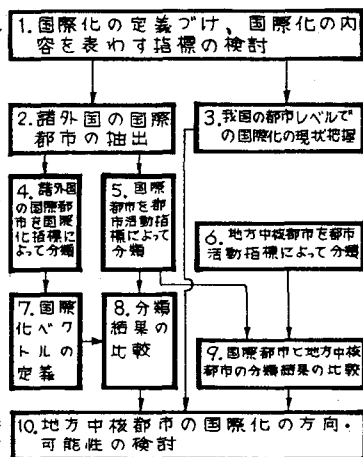


図-1 研究フロー
表-1 国際化指標

指 標	記 号	説 明
空 港	AP	最寄りの国際空港の有無およびその質
観 光	TR	観光地であるか、否か
見本市 コンベンション	CONVE	開催回数×1000/人口(万人)
万 国 博	EXPO	開催経験の有無
教 育	ED	外国人留学生50人以上の大学数×1000/人口(万人)
科学技術	RL	研究機関数×1000/人口(万人)
オリンピック	OLIM	開催経験の有無
商 社	CH	邦人従業員数×1000/人口(万人)
外国籍企業	FIRM	企業数×1000/人口(万人)
港 湾	HARBO	国際港湾の有無
新 聞 社	NO	日本新聞社支局数
国際機関	IO	機関数×1000/人口(万人)
国際商品市場	GM	市場開催の有無
通 信	COMMU	日本からの発信状況の良否
外 為 市 場 マネーマーケット	MM	外為市場、マネーマーケットの有無
資 本 市 場	CM	資本市場の有無
銀行・証券	BANK	日本の銀行・証券の進出状況の良否
首 都	CAPIT	首都であるか、否か

表-2 国際化指標の分類

第1グループ	第2グループ	第3グループ
・AP ・BANK ・CH ・NO ・IO ・CONVE ・MM	・OLIM ・CM ・HARBO ・COMMU ・EXPO ・GM	・FIRM ・TR ・RL ・ED ・CAPI
政治・経済・交通面を中心とした国際交流の程度を示すアイテム群	政治・経済・交通・文化・産業などあらゆる面の国際交流の程度を示すアイテム群	文化・産業面を中心とした国際交流の程度を示すアイテム群

へと成長発展する過程としては3方向が考えられた。たとえば、ある都市が、外国人留学生受け入れ可能大学・科学技術研究機関の設置、観光・通信面で"の交流の頻繁化、見本市・コンベンションの開催など"による国際交流の活発化で"国際都市へと成長し、次に国際空港の整備、外国籍企業の誘致など"を行なうことにより中次国際都市へと、さらに銀行・証券、外為市場・マネーマーケットなど金融面および科学技術機関の十分な設置により高次国際都市へと、その上、商社・新聞社・資本市場を中心とした国際交流が活発化すると超高次国際都市へと成長発展していくものと考えられる。

● 2-2. 数量化理論Ⅱ類による分析

以上の分析結果の信頼度およびサンプル外の都市がどのグループに属するかを調べるために図-2の8グループを外的基準とした数量化理論Ⅱ類による分析結果が図-4である。ここでは偏相関係数の高い2次元まで($\eta_1^2 = 0.96, \eta_2^2 = 0.95$)の判別得点(合成変量)を段階的に求めることによって8都市群への判別を試みたところ、平均して80%程度の判別率を得ることができた。

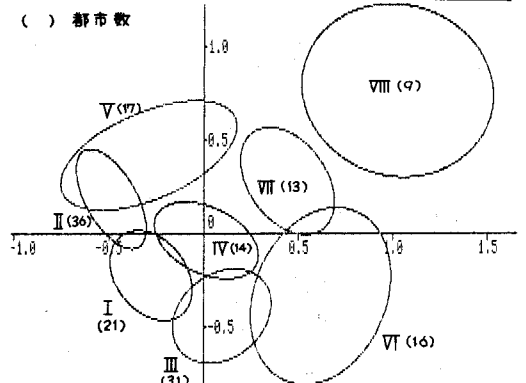


図-2 国際都市の分類

▶ 3. おわりに 本稿は「国際都市による地方中核都市の整備に関する基礎的研究」の一部を報告したものであるが、①「国際化」という概念のとらえ方、②国際空港が整備されて国際交流が活発になるのか、国際交流が活発になり国際空港の整備が必要となるのか、などの問題点や検討不十分な箇所を含んでおり、今後の研究の糧としていきたい。さらに、今後の研究方針としては、地方中核都市を対象として図-1の3. 我国の都市レベルでの国際化の現状把握、6. 我国の地方中核都市を都市活動指標によって分類する研究を継続していく予定である。

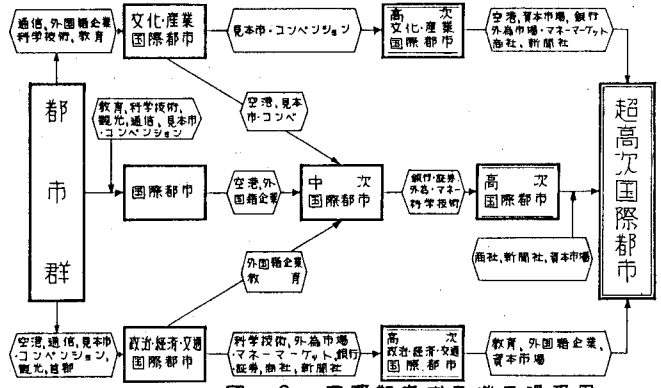


図-3 国際都市成長発展過程図

の研究の糧としていきたい。さらに、今後の研究方針としては、地方中核都市を対象として図-1の3. 我国の都市レベルでの国際化の現状把握、6. 我国の地方中核都市を都市活動指標によって分類する研究を継続していく予定である。

▶ 4. 参考文献

1. 国土庁：地域開発計画基礎調査；1982
2. 福山俊郎：数量化理論の土木工学への応用について
の研究；1972

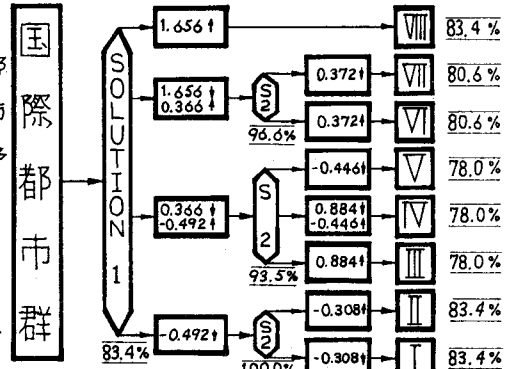


図-4 国際都市の判別